

平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 小樽地区
- 2 事例報告学校名 : 小樽市立高島小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 吉田 志津雄
- 4 キーワード : 学力向上の取組「よく考え、すすんで学ぶ子」の育成

1 はじめに

高島は小樽市の北西に位置し、「忍路、高島及びもないが、せめて歌棄・磯谷まで」という追分節と共に広く全国に知られています。

今年度、祝津小学校との統合で新しい高島小学校となりました。このため、古くから鯉漁で栄えた祝津地区（鯉御殿、青山別邸など古い建造物が多い）を加え、高島地区（古くは北洋への船団が出航した港がある）、新しく住宅が広がった赤岩地区・かもめが丘団地など、広い地域が校区になりました。

本校は、明治17年に開校、今年度は新しい高島小学校の開校ならびに130周年を迎えています。

一時は市営・道営団地の建設で児童数も多かった高島小学校ですが、小樽市の人口減・少子化の影響か、毎年少しずつ児童数が減少し、現在全校児童数は321名、学級数15学級（特別支援学級：「たからじま学級」4学級を含む）の編成となっています。



新しい学校教育目標（平成25年4月1日制定）

『ゆたかに学び、ひとみかがやく たかしまの子』

重点目標

『生き生きと学び、自分のよさを発揮できる子どもの育成』

2 ゆたかな学びを育む活動

算数科TT・習熟度別少人数で個に応じた指導

平成23年度から、算数科にチームティーチングを導入して個に応じた指導を進めてきています。

特に、本校では高学年になってからの「算数嫌い」の割合が高く、（H24のアンケート：「算数が嫌い・あまり好きでない」5年生：47.5%）個人差が開いてきていることから、3年生以上でチームティーチングを行っています。T1・T2の教師が連携して見取りをして、授業でつまずきがある児童・学び直しが必要な児童に個別に対応したり、空き教室を利用して習熟度別少人数指導を行ったりしています。

複数の先生に授業を見てもらうことに関して、算数アンケートの項目で「TTがいてよかったこと：質問しやすい：60%、内容がわかりやすい：53%」と、児童のTTへの評価も高く、少しずつ学習意欲も高まってきています。



家庭学習など学習習慣づくりに

～家庭学習の手引き「たからじま小学校で学ぶ」



学習習慣や学習意欲の向上のため、学習のめやすの時間・教科の主な取組について記載しています。「小中9年間で子どもたちを育てる」という考えで、地域の中学校と一部内容をそろえて作成しました。あわせて、資料として「生活習慣の見直し」「携帯・メール使用について」も加えて家庭に配付しています。家庭と連携・協力して取り組むため、配付するだけでなく、学校説明会や懇談会、PTAの会議などでも取り上げて説明し、具体的な取組を促しています。

学び直しと意欲的な学習の機会を ～「放課後学習」

外部人材を活用した放課後サポーターと、小樽商科大学生を中心とした「樽っこサポート」・地域支援ボランティアが担任と連携して放課後学習を行っています。

各学年週1回ですが、たくさんのボランティアの参加に伴い、児童の希望者も増えています。

昨年度は、参加延べ人数が2,600人を超え、児童の学習習慣の形成に一役買っています。

また、学び直しの機会として取り組むだけでなく、「自分のペースでどんどん学習したい」という児童も増え、活用の幅が広がっていることがわかります。(H24: アンケートより「わからない所を教えて欲しい」59%、「プリントをどんどんやりたい」30%)

放課後学習をきっかけに、自分で学習に取り組む児童が一人でも多くなることを目標にしています。

また、多くの人々の目で児童の成長を見つめ、地域とつながる学習活動を目指しています。



3 おわりに

本校では、今後、学習規律を徹底させ、「言語活動」を取り入れた授業づくりやICT機器を活用した授業づくりを通して子どもたちの学習意欲を向上させ、集中して学習に取り組む子どもを育てていきます。

